

「大規模CT整備と自動化は両輪」

第4回港湾ロジWG・議事概要

国土交通省港湾局はこのほど、5月に開催した第4回「港湾ロジスティクスワーキンググループ（WG）」（非公開、座長：金子恭之国交相）の議事要旨を公表した。それによると、港湾ロジの強化に向けたWGのとりまとめ案について意見交換を行ったという。注目される荷役機械の自動化・遠隔操作化について、委員からは「大規模ターミナルの整備と荷役機械の自動化・遠隔操作化は車の両輪」「自動搬送台車（AGV）や自動トレーラーなど、ターミナル内の水平搬送の自動化推進が重要だ」といった意見が出た。

5月20日に開かれた港湾ロジWGでは、「港湾ロジスティクスの強化に向けて」と題したWGのとりまとめ案について議論した。委員からの指摘部分を修正した上で公表されたとりまとめをみると、①自律的な港湾ロジスティクスの実現による国際競争力の強化②サイバー・フィジカル両面での港湾の強靱化③港湾ロジスティクスを支える担い手の確保・育成——の観点で様々な施策が列挙されている。

①では、「他国に過度に依存しないサプライチェーンの構築」として、大水深・大規模コンテナターミナル（CT）の整備や既存ターミナルの再編・機能強化の着実な推進などが盛り込まれた。これについて、WGでは「大規模なターミナルの整備と荷役機械の自動化・遠隔操作化は車の両輪」との指摘があり、民間投資を促進するためにも必要なインフラ整備を進めることを推奨する意見が出た。

「自動化・遠隔操作化等荷役機械の導入促進」は、①の中の「生産性向上、DXや脱炭素化の取り組みによる選ばれる港湾の実現」の施策の一つとなっており、WGでも多くの意見が寄せられたようだ。



主なものをみると、これまでも国内では遠隔操作RTG（ラバータイヤ式門型クレーン）や遠隔操作ガントリークレーンの導入・開発が進んできたが、「今後CT全体の自動化などを考えるにあたっては、自動搬送台車や自動トレーラーなど、ターミナル内の水平搬送の自動化などの推進も重要になる」との考えを述べる委員がいた。

また、有人と無人の荷役機械が混在する可能性を踏まえ、安全な運用のためのガイドラインの必要性や、フィジカルAIの活用を訴える意見があった。

③に盛り込まれた人材育成では、厚生労働省の「港湾カレッジ」について、「求人数が何百人のところにはほんの数十人しか輩出できていない」と指摘し、「国の99%の物流が港なので、必ずそこにビジネスはある。年齢層を問わずしっかりと宣伝すれば、様々な

人材がやってくるのではないかと」の提案もあった。

加えて、「機械が高度化すれば、人はそこまで高度な技術がなくても済むのではないかと。より高度な技術が必要というよりは、求められるスキルの内容が違ってくるところを整理した方が良い」、「新しい時代に対応できる人という意味で、高度な知識を習得するための教育訓練が求められる」などの意見が上がった。

こうした様々な施策については、「これだけのことをやっていけば、ある程度、明るい未来が見えてくるのではないかと」期待の声が寄せられた。一方で、「新たな手を打つなりしていかないと、ここだけの議論で終わってしまう可能性が大きい」とし、定期的な見直しや軌道修正を求める委員もいた。

さらに、「選ばれる港というキーワードは今の日本にとってはとても重要な概念」とし、「国が果たすべき役割、国の指導力が今後ますます重要になっていく」と国の手腕に期待する意見があった。また、「国際情勢の変化や技術革新の速さを考えると、スピード感を持って対応しなければならない」と、早急な施策の実施を要望する声も聞かれた。